

## 科学する心を育てるための取り組みと省察2

和歌山市立こども科学館  
専門教育員 野上聖児

### 1. はじめに

「こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じて能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成すること」を目的に、本館では活動を行っている。

本報告は、「科学する心」の育成に着目し、これまでに取り組んできた9つの実践をまとめたものである。科学リテラシー向上のために4つの観点に着目しこれまでの取り組みを省察した。4つの観点とは、「興味・関心」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」のことである。

本年度は、昨年度の論文から気づいたこと・発見したこと等を反映することとした。

### 2. 科学館での取り組み

科学に関する興味と認識を深めることを目標に、科学館内で行っている7つの教室の取り組みをまとめた。

- (1) 9歳までに身につけたい科学教室
- (2) 実験で発見！教室
- (3) 音科楽教室
- (4) 自然工作教室
- (5) 夏休み実習教室
- (6) ミニサイエンス
- (7) 親子生き物博士教室



【開催した教室での様子】

### 3. 学校と連携して

学校と連携して行った2つの取り組みをまとめた。

- (8)伏虎務教育学校6年生との連携
- (9)理科勉強会への協力

理科勉強会では、参加した先生方にアンケートをお願いし、来年度への参考とすることとした。学校現場ならではのご意見を頂戴することができた。

### 4. 省察

これまでの取り組みの中から3つのプログラムを取り上げ、科学リテラシー向上のために4つの観点に着目し省察した。本年度はプログラム実施結果の分析を、アンケートをもとに客観的に行った。その結果、本館の事業は「興味・関心」を高める事業を多く行っていること、小学校低学年までの子どもたちに有意義な事業を展開していることがわかった。一方で、小学校高学年から中学生までの参加者が少ないことやリピーターだけでなく新しい参加者を増やすことへの取り組みの必要性も見えてきた。

### 5. おわりに

これまでの取り組みをまとめ省察し来年度を見通すよい機会となった。これからも、子どもたちの「科学する心」を育てるために、邁進していきたい。